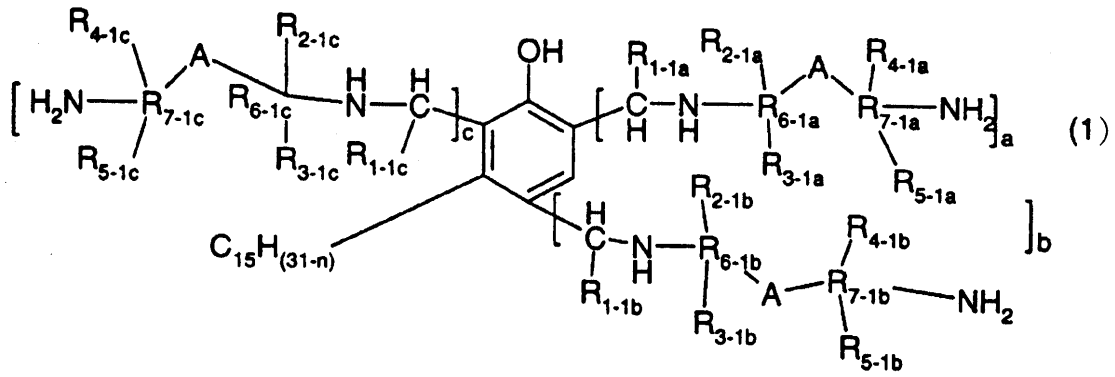
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成18年8月10日(2006.8.10)

【公表番号】特表2002-519480(P2002-519480A)
【公表日】平成14年7月2日(2002.7.2)
【出願番号】特願2000-558065(P2000-558065)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ　59/40　　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ 215/50　　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ　59/62　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ　59/40
Ｃ０７Ｃ 215/50
Ｃ０８Ｇ　59/62

【手続補正書】
【提出日】平成18年6月19日(2006.6.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　次式（１）
【化１】



(1)

（式中、ｎは０、２、４または６であり、
ａ、ｂおよびｃは互いに独立して１または０であり、
ａ、ｂおよびｃの合計は少なくとも１であり、
R_{1-1a}、R_{1-1b}およびR_{1-1c}は互いに独立して水素原子、アルキル基、アリール基、アルキレン基、アリールアルキル基またはアルキルアリール基で表される炭素原子１ないし１０個を含む炭化水素基、あるいは炭素原子１ないし１０個および酸素原子、イオウ原子または窒素原子であり得るヘテロ原子の少なくとも１個を含む炭化水素基を表わし；
R_{2-1a}、R_{3-1a}、R_{4-1a}、R_{5-1a}、R_{2-1b}、R_{3-1b}、R_{4-1b}、R_{5-1b}、R_{2-1c}、R_{3-1c}、R_{4-1c}およびR_{5-1c}は互いに独立して水素原子または炭素原子数１ないし４のアルキル基を表わし、
R_{6-1a}、R_{7-1a}、R_{6-1b}、R_{7-1b}、R_{6-1c}およびR_{7-1c}は互いに独立して炭素原子数１ないし４のアルキレン基を表わし；そして

Ａは炭素原子５ないし７個を有する芳香族または脂環族環を表わす。）で表される化合物。

【請求項２】　R_{1-1a}、R_{1-1b}およびR_{1-1c}が互いに独立してメチル基を表わす請求項１記載の化合物。

【請求項３】　R_{1-1a}が水素原子を表わし、ａが１であり、そしてｂおよびｃが０である請求項１記載の化合物。

【請求項４】　R_{2-1a}、R_{3-1a}、R_{4-1a}、R_{5-1a}、R_{2-1b}、R_{3-1b}、R_{4-1b}、R_{5-1b}、R_{2-1c}、R_{3-1c}、R_{4-1c}およびR_{5-1c}が互いに独立して水素原子、メチル基またはエチル基を表わす請求項１記載の化合物。

【請求項５】　R_{2-1a}、R_{3-1a}、R_{4-1a}およびR_{5-1a}がそれぞれ水素原子を表わし、ａが１であり、そしてｂおよびｃが０である請求項４記載の化合物。

【請求項６】　R_{2-1a}、R_{3-1a}、R_{4-1a}およびR_{5-1a}がそれぞれ水素原子を表わし、ａが１であり、そしてｂおよびｃが０である請求項３記載の化合物。

【請求項７】　R_{6-1a}、R_{7-1a}、R_{6-1b}、R_{7-1b}、R_{6-1c}およびR_{7-1c}が互いに独立してメチレン基またはエチレン基を表わす請求項１記載の化合物。

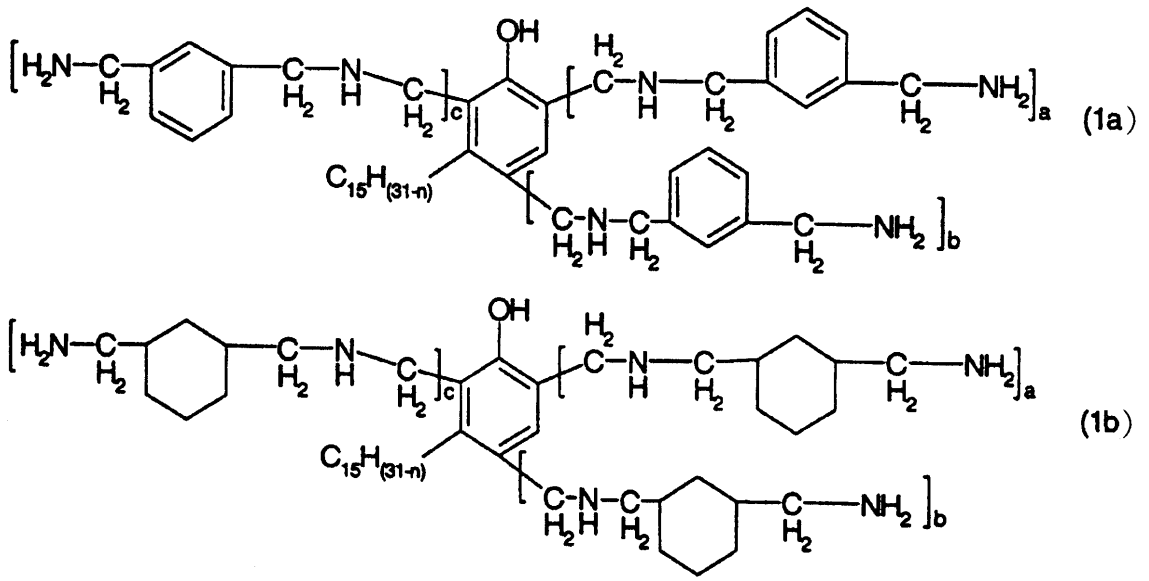
【請求項８】　ａが１であり、そしてｂおよびｃが０である請求項７記載の化合物。

【請求項９】　Ａが炭素原子６個を有する芳香族または脂環族環を表わす請求項１記載の化合物。

【請求項１０】　Ａが炭素原子６個を有する芳香族または脂環族環を表わす請求項８記載の化合物。

【請求項１１】　次式（１ａ）または（１ｂ）

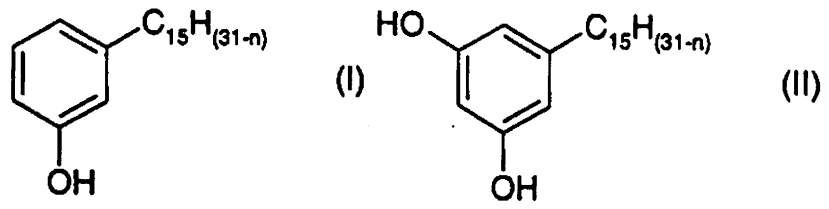
【化２】



（式中、ｎ、ａ、ｂおよびｃは請求項１で定義された通りの意味を有する。）で表わされる請求項１記載の化合物。

【請求項１２】　約９０：１０ないし約９８：２の重量比でカルダノール（Ｉ）およびカルドール（ＩＩ）

【化３】

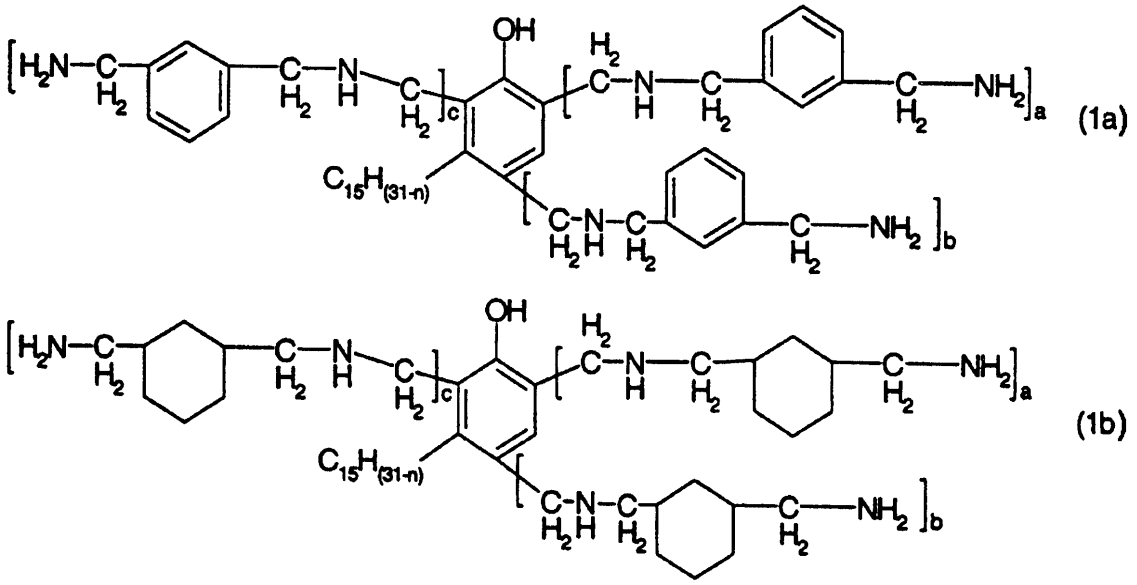


（式中、ｎは０、２、４または６である。）を含むカシューナット殻液抽出物を少なくとも一種の芳香族または脂環族ポリアミンおよび少なくとも一種のアルデヒド化合物と結合させることにより得られるマンニッヒ塩基反応生成物。

【請求項１３】　上記ポリアミンがキシレンジアミン、１，３－ビス（アミノメチル）シクロヘキサンおよびそれらの混合物から選択される請求項１２記載の生成物。

【請求項１４】　構造式（１ａ）または（１ｂ）

【化４】



（式中、ｎは０、２、４または６であり、ａ、ｂおよびｃは互いに独立して１または０であり、そして前記マンニッヒ塩基反応生成物混合物において式（１ａ）および／または（１ｂ）に相当する全ての化合物に関して（ａ＋ｂ＋ｃ）の合計についての平均値は約１．２である。）で表わされる化合物の少なくとも一種からなる請求項１３記載の生成物。

【請求項１５】　ａ）請求項１ないし１１に記載の化合物およびｂ）一分子につきグリシジル基を平均で１個より多く有するエポキシ樹脂からなるエポキシ樹脂組成物。

【請求項１６】　ａ）請求項１４記載のマンニッヒ塩基反応生成物およびｂ）一分子につきグリシジル基を平均で１個より多く有するエポキシ樹脂からなるエポキシ樹脂組成物。

【請求項１７】　ａ）請求項１５または１６記載のエポキシ樹脂組成物およびｂ）顔料からなる硬化性配合物。

【請求項１８】　フェナルカミン含有組成物を使用することによる、減少された黄色度指数を有する表面塗布方法であって、該表面に請求項１７記載の硬化性配合物を塗布することからなる方法。